

平成26年度  
文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「女性研究者研究活動支援事業」  
事業報告書



国立大学法人 琉球大学  
うない研究者支援センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
国立大学法人琉球大学 うない研究者支援センター  
TEL 098-895-8675 FAX 098-895-8732  
Email [gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp](mailto:gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp)  
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/>

平成27年3月発行



国立大学法人 琉球大学  
うない研究者支援センター

University of the Ryukyus  
Unai Center for Woman Researcher Support and Development

## センター長挨拶



うない研究者支援センター長

小西 照子

平成23年に男女共同参画室が設置されて以降、本学では男女共同参画の重要性を啓発するとともに女性研究者に働きやすい職場環境を提供するため、すべての大学構成員の意識改革が積極的に推進されてきました。平成24年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、同年11月に「うない研究者支援センター」を新しく設置しました。平成26年度までの3年間の事業を通して、うない研究者支援センターは、女性研究者がその能力を最大限に発揮できるように、数多くの研究活動支援や環境整備を進めて参りました。中でも特筆すべきは「研究補助員配置制度」です。この制度はワーク(仕事)・ライフ(生活)バランスの改善の一環として、育児・介護期間中の女性研究者への研究支援を行うものであり、出産・育児・介護と研究の両立を支援することで、すべての女性研究者が研究の遂行を諦めずに、継続できる環境づくりに貢献しています。この制度はこれまでに多くの研究者に利用され、着実に成果を上げてきました。男女共同参画の実現のひとつに女性研究者の在籍比率を上げることが重要ですが、そのためには女性研究者を採用するだけでなく、女性研究者の離職率をゼロにすることも極めて大切です。研究補助員配置制度は女性研究者の離職率を抑えるためには非常に有効な制度であり、規模は縮小しても今後とも続けていく予定です。

うない研究者支援センターは、平成27年度から新たな組織として活動を続けて参ります。琉球大学は、地元で活躍し、地域活性化に貢献し得る人材を育成する教育研究機関として、今後とも男女共同参画を推進し、性別や国籍、人種等を問わない多様性を尊重する環境づくりおよび意識のさらなる醸成を目指していきます。

## 女性教員の比率増を目指します。

平成27年度末までに、女性教員の在職比率を17%に上昇させること、新規採用増を目指します。

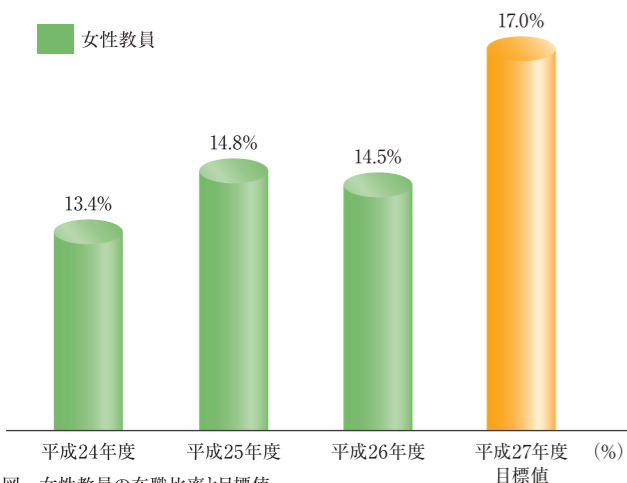
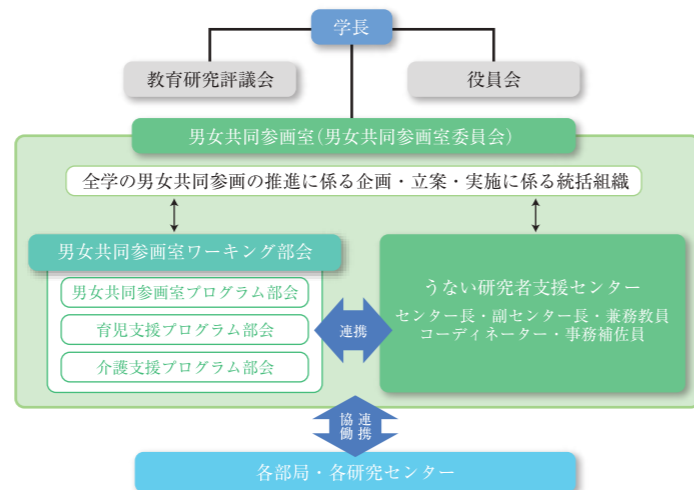


図 女性教員の在職比率と目標値  
出典 学校基本調査、琉球大学男女共同参画の推進について～アクションプラン～

## 組織図



## 活動報告

### 2014年(平成26年)

- 4/14 平成26年度前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」開講
- 4/20 ラジオキャンパス出演(小西照子センター長)「ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)」事業(文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」)
- 5/1 平成26年度第一期研究補助員配置制度開始
- 5/7 第4回ゆいカフェ開催
- 5/14 第1回研究補助員説明会の実施
- 6/9 第1回キャリアデザインフォーラム「社会貢献と女子力」開催(講師:大城玲子氏 沖縄県子ども生活福祉部子ども福祉統括監)
- 6/16 第2回キャリアデザインフォーラム「アセローラ物語」開催(講師:並里哲子氏、農業生産法人株式会社アセローラフレッシュ代表取締役)
- 6/24 第4回トップセミナー開催(講師:北澤宏一氏 東京都市大学学長)
- 6/30 第3回キャリアデザインフォーラム「夢のプロセス～3つのチャ・チャ・チャ」開催(講師:豊川明佳氏 有限会社インターリンク沖縄 取締役)
- 7/12 サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ(沖縄科学技術大学院大学との合同出前教室 於:石垣島)(文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」)
- 7/14 第4回キャリアデザインフォーラム「科学技術分野における女性研究者」(講師:Yun Low氏 マラヤ大学医学部)
- 7/19 オープンキャンパス企画「理系女子生まれ!」と女性研究者研究活動支援事業紹介パネル展示
- 7/28～8/1 「夏休み学童保育2014」実施
- 8/2 「山崎直子さんと語ろう! 夢をつなぐ生き方」意見交換会へのパネリスト参加
- 8/30 「子育てハンドブック」刊行
- 9/20 「第6回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 熊本」共催
- 9/30 第3回ワーク・ライフ・バランス講座「ココロとカラダの整え方」(講師:熊谷歩 附属病院産婦人科)
- 10/1 平成26年度第二期研究補助員配置制度開始
- 10/10 第2回研究補助員説明会の実施(於:千原キャンパス 10/14 於:上原キャンパス)
- 11/8 第8回スキルアップセミナー「英語ライティング基礎講座～世界と繋がる英語によるEメール・コミュニケーション～」
- 11/9 第9回スキルアップセミナー「採択される英語論文の書き方」
- 11/13 留学生(博士後期課程)との意見交換会
- 11/29 第10回スキルアップセミナー「英語プレゼンテーション能力向上セミナー」
- 12/4 「男女共同参画シンポジウム2014 ～女性研究者支援からダイバーシティ推進へ～」開催

### 2015年(平成27年)

- 1/6 平成26年度「育児サポート・サービス利用料補助事業」利用者募集
- 1/19 附属図書館合同企画展「誰もが輝ける社会を目指して ～男女共同参画推進への挑戦～」(3/20まで)
- 3/10 第5回トップセミナー開催(講師:上瀧恵里子准教授 九州大学)
- 3/16 第11回スキルアップセミナー「採択される英語論文の書き方 集中講座」



# 環境整備

女性研究者が仕事と生活を両立できるよう、相談体制や研究支援制度等の環境整備に取り組みました。

## 研究補助員配置制度

出産・育児または介護等に携わる研究者に対し、研究時間を確保し、研究活動の活性化を促進するために、研究補助員を配置する「研究補助員配置制度」を実施しました。また、本制度を利用する教員は、研究支援を行う研究補助員に対し、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた自らの研究やキャリア形成を考える手助けとなるよう監督・指導をおこない、次世代の研究者育成に努めています。

### 申請対象者

- 本学に在職する女性研究者または配偶者が研究者である男性研究者で、次のいずれかに該当する方
- 妊娠中の者、または配偶者（研究者に限る）が妊娠中の方
- 小学校6年生までの子を養育している方
- 家族（配偶者・父・母・兄弟・子等）に要介護者、または要看護者がいる方  
ただし、産前産後休暇中、育児休業または介護休業中の方は除きます。

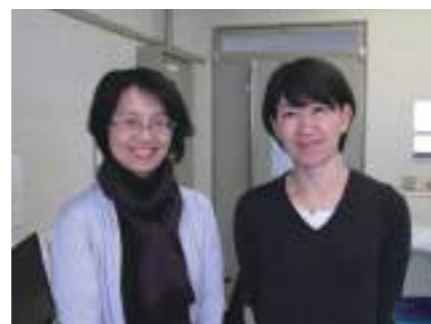
表 研究補助員配置制度利用者の内訳(平成24年度～平成26年度)

性別	平成24年度		平成25年度(第1期)		平成25年度(第2期)		平成26年度(第1期)		平成26年度(第2期)	
	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護
男性	4	0	5	0	5	0	5	0	2	0
女性	11	4	13	5	15	9	12	6	11	7
小計	15	4	18	5	20	9	17	6	13	7
総計	19名		23名		29名		23名		20名	

## 研究補助員配置制度を利用して

医学部保健学科 准教授 遠藤 由美子

私は中高年世代にある女性の健康を支援するための研究をしています。その一つが、「孫育て世代にある祖母の育児支援と心身の健康」に関する研究です。近年、育児支援において祖父母が重要な役割を担っています。祖父母が主体的に孫育てにかかわることが健康に良い影響を与える反面、加齢による健康状態の変化が現れる年代でもあり、孫の育児が心身への負担につながっている可能性もあります。本研究では、祖母自身や孫の背景の違いによる育児支援内容や祖母の健康状況について分析を行いました。その他、複数の課題について研究を進めていますが、研究補助員制度を利用することでそれぞれの研究計画がスムーズに進み、研究成果をまとめることができました。



## 平成26年度インセンティブ経費

公募により女性研究者を採用した部局等にインセンティブ経費を配分し、教育や研究活動の環境整備等に使用されました。

### インセンティブ経費を配分された部局

- 工学部

## 英文校閲費用助成・国際学会派遣費用助成事業

女性研究者のキャリアアップを推進することを目的に、学術雑誌に論文を投稿する際の英文校閲に係る費用および国際学会等で研究成果発表を行うために必要な経費を助成しました。

### 平成26年度採択実績

- 英文校閲費用助成 (上限3万円) 2名
- 国際学会派遣費用助成(上限15万円) 4名

## 夏休み学童保育2014の実施

平成26年7月28日(月)から8月1日(金)の5日間、昨年に引き続き、教職員や学生の児童(小学生)を対象に夏休み学童保育を実施しました。期間中は、保育士4名を常時配置し、学生ボランティアの協力も得ながら、20名の児童(保護者15名)を受け入れました。体験プログラムでは、本学の大学院学生による環境教育や農学部放牧地にて研究室協力による与那国馬などの動物観察、「昔の沖縄のくらしを知ろう!」(沖縄県立埋蔵文化センター)などのワークショップを開催しました。また、今年度は沖縄科学技術大学院大学(OIST)と連携し、OISTの学童保育所(Tedako nursery)との交流会を2日間にわたり実施しました。

実施後の保護者アンケートでは、「学内なので、送迎の時間を気にせず安心して仕事に集中できた」、「OISTの子どもたちと交流したり、馬やヤギを見学したりと、普段体験できないことができたので、子どもが楽しんでいた」という声がありました。しかし一方で、「開所や閉所時間を長くしてほしい」、「実施期間を長くしてほしい」、「利用者数を増やしてほしい」などの意見がありました。今後も、このような子育て支援を大学全体の取組として広げていきたいと考えています。



## 慰霊の日の託児所開設

本学の教職員の仕事と生活の両立支援として、勤務日における「慰霊の日」に伴う学校休校中の学童保育を提供しました。





# 意識啓発

トップセミナーやキャリアデザインフォーラムなど様々な情報発信を通し、意識啓発を行い、男女共同参画推進の強化・充実を図りました。また、今年度は本事業の最終年度を迎え、これまでの取り組みや成果について総括する男女共同参画シンポジウムを開催しました。

## 男女共同参画シンポジウムの開催

平成26年12月4日(木)、琉球大学学生会館にて、男女共同参画シンポジウム2014「女性研究者支援からダイバーシティ推進へ」を開催しました。シンポジウムでは本事業の総括としてこれまでの取り組みと成果を報告すると共に、パネルディスカッションでは研究の活性化のためにも多様な人材の確保や育成、活躍促進のための施策や環境整備の重要性が議論されました。

基調講演「愛媛大学の女性未来育成プランとダイバーシティ」  
 壽 卓三 愛媛大学副学長(女性未来育成センター長)



## 男女共同参画トップセミナーの開催

大学運営に関わる管理職員を対象に、女性研究者の育成に係る支援策の充実及び女性研究者の採用数の増加に向けた取り組みを積極的に推進することを目的とした男女共同参画トップセミナーを開催しました。

### 第4回 トップセミナー

日 時：平成26年6月24日(火)  
 講 師：東京都市大学学長 北澤宏一氏  
 演 題：「まず参加すること、継続すること、そのためのしかけ」

### 第5回 トップセミナー

日 時：平成27年3月10日(火)  
 講 師：九州大学研究戦略企画室 上瀧恵里子准教授  
 演 題：「女性研究者の積極的採用と人事ポイント制度の効果と課題～九大方式女性教員採用・養成システムの事例から～」



第4回 トップセミナー(講師:北澤宏一氏)

## サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ

2014年7月12日(土)、八重山地域に在住する女子中学生を対象に、琉球大学と沖縄科学技術大学院大学(OIST)の主催による「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」を石垣市商工会館にて開催しました。



中学生との交流会

## キャリアデザインフォーラム

「ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)」事業(COC地(知)の拠点整備事業)の一環として、沖縄県内の行政や地元企業で活躍する女性リーダーをお招きし、「社会を動かすうないの力」をテーマに「キャリアデザインフォーラム 2014」を、教職員や学生、一般の方を対象に開催しました。どの回も、第一線で生き活きと活躍される女性リーダーが様々な葛藤を抱えながらも、誠実に目の前の仕事に向き合い続けてきた経験が語られ、会場からも多くの質問が出るなど盛況な会となりました。7月15日には、特別講演の講師としてお招きしたマラヤ大学医学部長のWah Yun LOW先生と男女共同参画室員との意見交換会を実施しました。

- 平成26年6月9日 「社会貢献と女子力」  
 大城 玲子 氏(沖縄県子ども生活福祉部 子ども福祉統括監)
- 平成26年6月16日 「アセローラ物語」  
 並里 哲子 氏(農業生産法人株式会社 アセローラフレッシュ 代表取締役)
- 平成26年6月30日 「夢のプロセス～3つのチャ・チャ・チャ」  
 豊川 明佳 氏(有限会社 インターリンク沖縄 取締役)
- 平成26年7月14日 「科学技術分野における女性研究者エンパワメント」  
 Professor Wah Yun LOW氏(University of Malaya, マレーシア)



「社会貢献と女子力」講師:大城玲子氏

## 共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」

本年度から共通教育科目として「キャリアデザインとジェンダー」を開講しました。本学の様々な分野の女性教員や地域で活躍する女性リーダーによるオムニバス形式の講義で、男女58名の学生が受講しました。

第1回	4月14日	喜納 育江(国際沖縄研究所)	オリエンテーション
第2回	4月21日	喜納 育江(国際沖縄研究所)	「国際的比較にみる女性の社会進出と政策、沖縄におけるジェンダーの問題」
第3回	4月28日	高橋 そよ(うない研究者支援センター)	「大学から男女共同参画社会を考える～琉球大学の挑戦～」
第4回	5月7日	野入 直美(法文学部)	「職業としての研究、ジェンダーとライフサイクル」
第5回	5月12日	清水 千草(医学研究科)	「夫婦研究者論:二人で研究&子育て」
第6回	5月19日	高橋 美奈子(教育学部)	「妻・母・大学教員としてのワーク・ライフ・バランス」
第7回	5月26日	藤田 陽子(国際沖縄研究所)	「キャリアを決めるタイミング」
第8回	6月2日	佐々木 香代子(留学生センター)	「小さなことの積み重ねが人生を決める」
第9回	6月9日	大城 玲子(沖縄県子ども生活福祉部)	「社会貢献と女子力」
第10回	6月16日	並里 哲子(農業生産法人株式会社 アセローラフレッシュ)	「アセローラ物語」
第11回	6月20日	漢那 洋子(理学部)	「ジェンダーと自然科学—科学研究者としてのキャリアを現代科学の観点から考える—」
第12回	6月30日	豊川 明佳(有限会社 インターリンク沖縄)	「夢へのプロセス～3つのチャ・チャ・チャ～」
第13回	7月7日	寺嶋 芳江(熱帯生物圏研究センター)	「生まれ、きのこ女子」
第14回	7月14日	Wah Yun Low(マラヤ大学)	「Women's Empowerment in Science Technology」
第15回	7月28日	喜納 育江(国際沖縄研究所)	まとめ「キャリアデザインとワーク・ライフ・バランス」

## ワーク・ライフ・バランスセミナー

2014年9月30日(火)、仕事(学業)と生活とのバランスについて考えることを目的として、熊谷歩氏(琉球大学医学部附属病院 産婦人科医)を講師に迎え、「ココロとカラダの整え方」と題したセミナーを開催しました。当日は25名の教職員と学生の参加があり、ヨガと気功を合わせたオリジナルエクササイズを行いました。最後に玄米おむすび弁当を頂きながら、所属先や職種を超えた交流会を行いました。



講師:熊谷 歩氏(琉球大学医学部附属病院 産婦人科医)



# 裾野拡大

## オープンキャンパス(平成26年7月19日)

オープンキャンパス企画「女性研究者による“理系女子”のための自然科学系分野紹介」とパネル展示を開催しました。パネル展示では、男女共同参画の現状や琉球大学における女性研究者支援事業の取り組みや、本学で活躍する女性研究者を紹介しました。

女性研究者による研究紹介では、約40名の女子高校生が参加し、漢那洋子准教授(理学部 海洋自然科学科化学系)が、実験や身近で応用されている実例をみせながら「光化学」の研究紹介をし、学生時代の経験を織り交ぜながら「自然科学分野・科学技術分野における男女共同参画」についてお話をされました。



## スキルアップセミナー

教職員、大学院学生の英語力向上を目的としたスキルアップセミナーを開催しました。

### 第8回 スキルアップセミナー

「英語ライティング 基礎講座 ～世界と繋がる英語によるEメール・コミュニケーション～」

平成26年11月8日(土)

講師：川上 倫子氏(リンクサイエンス)



第8回 スキルアップセミナー(講師:川上倫子氏)

### 第9回 スキルアップセミナー

「採択される英語論文の書き方」

平成26年11月9日(日)

講師：川上 倫子氏(リンクサイエンス)



第9回 スキルアップセミナー(講師:川上倫子氏)

### 第10回 スキルアップセミナー

「英語プレゼンテーション能力向上セミナー」

平成26年11月29日(土)

講師：Dr Jeffrey Robens氏

(エダンズグループ ジャパン株式会社、生命科学シニアエディター)



第10回 スキルアップセミナー(講師:Dr Jeffrey Robens氏)

### 第11回 スキルアップセミナー

「採択される英語論文の書き方 集中講座」

平成27年3月16日(月)

講師：Dr Jeffrey Robens氏

(エダンズグループ ジャパン株式会社、生命科学シニアエディター)

## 図書館と合同で企画展開催

平成27年1月19日(月)から約2か月間、附属図書館と合同で「誰もが輝ける社会を目指して～男女共同参画推進への挑戦～」を開催しました。

本合同企画展では、国内外の男女共同参画の動向や琉球大学の女性研究者支援の取り組みについてのパネル展示、関連図書の展示・貸出を行い、「家族・いのち」をテーマとした上映会を開催しました。



## 留学生との意見交換会

11月30日、博士後期課程の留学生を中心に、大学に望む支援策や修学環境の改善等についてディスカッションを行いました。



## 男女共同参画関連図書コーナー

うない文庫(附属図書館常設)

- 第6回「大学生のためのジェンダー学入門」(平成26年4月7日～6月16日)
- 第7回「ジェンダーをめぐる視点」(平成26年7月3日～9月16日)
- 第8回「格差社会と多様性」(平成26年9月26日～11月28日)
- 第9回「もうひとつのキャリアデザイン」(平成27年1月19日～3月20日)



## 情報発信(ニューズレターの発行など)



ニューズレター  
「うない通信」



子育てハンドブック  
(日本語版、英語版)



ホームページ

## 外灯整備 ～女性研究者の声も反映されました～

平成26年度に施設運営部が実施した「(千原他)外灯設備改修工事」において、昨年度行った「学長と女性研究者との懇談会」で指摘された安全なキャンパスの確保についての要望が反映されました。特に、懇談会で夜間の照明が暗いと指摘が多かった、1) 図書館前、2) 学部の建物の死角、3) 駐車場周囲等を優先地区として、照らす範囲が狭い庭園灯型からボール型に、さらに照明灯が蛍光灯からLED照明に取り換えられました。来年度以降も、安全なキャンパスづくりのために、引き続き環境整備に取り組んでいきます。

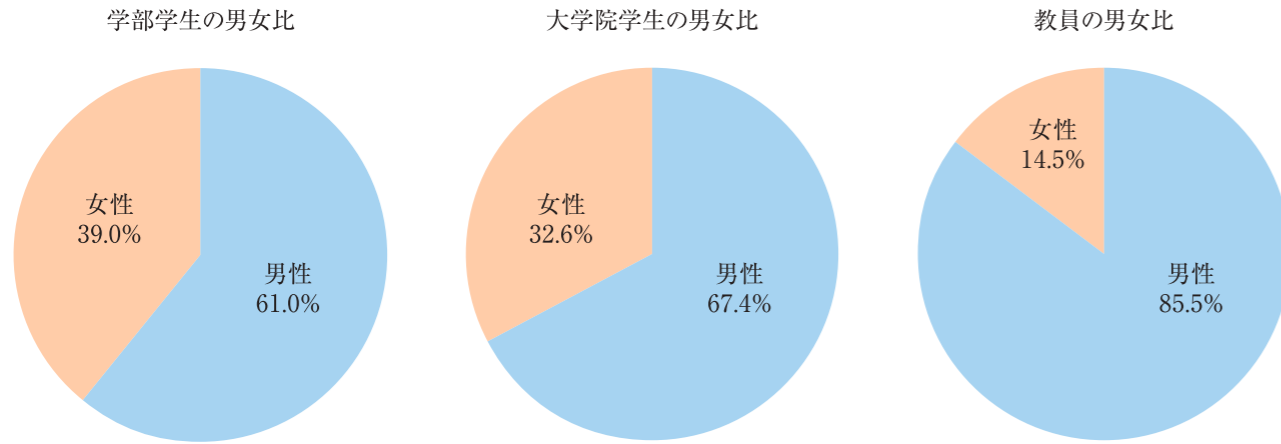




# 数値でみる琉球大学

## 学部学生の男女比率(学部学生・大学院学生・教員)

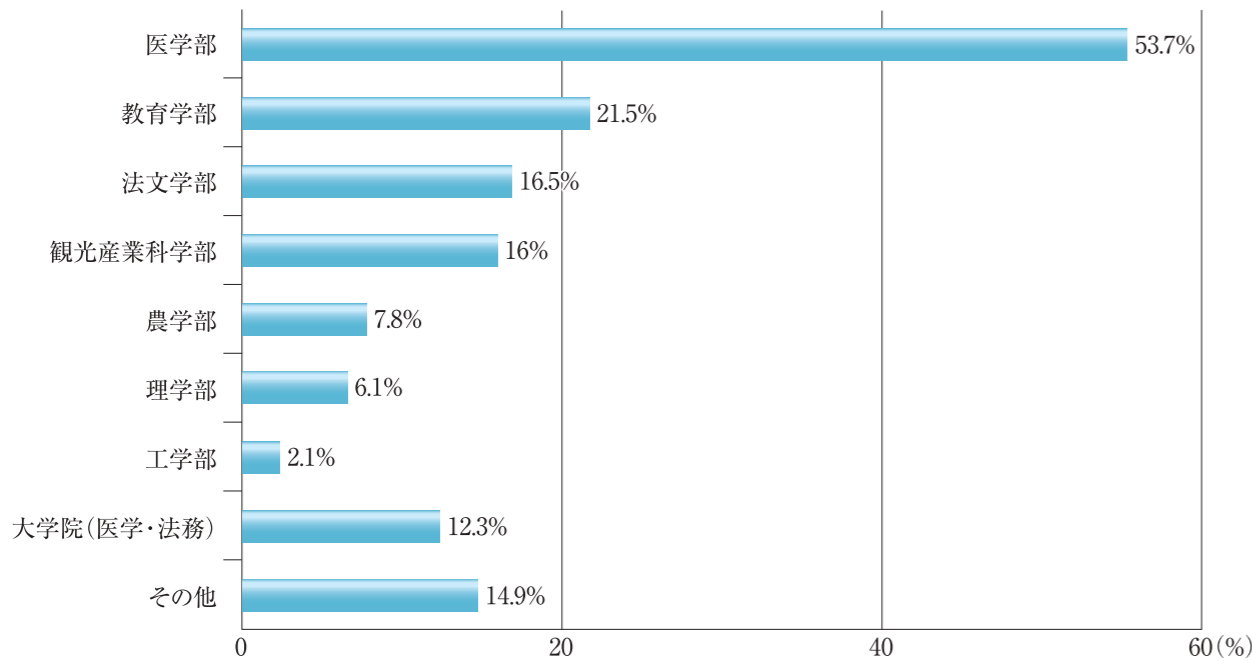
本学において、学部学生の約4割が女子学生ですが、大学院学生では6.4%減の32.6%となり、大学院へ進学する女子学生が男子学生よりも少ないことがうかがえます。さらに、女性教員の比率は14.5%と低く、女子学生と女性教員の比率に大きな差があることが指摘できます。



出典 平成26年度学校基本調査  
図 本学の男女比(学部学生、大学院学生、教員)

## 学部別女性教員の在職比率

平成26年5月1日現在



出典 学校基本調査(平成26年度)  
図 琉球大学の学部・研究科別女性教員の比率

## メディアで紹介されました



■内閣府の広報誌「共同参画」(2015年1月号)に本学の男女共同参画の取り組みが紹介されました。

このページには、琉球大学の男女共同参画に関するメディア掲載のスクリーンショットが複数掲載されています。左側のスクリーンショットは、内閣府の広報誌「共同参画」(2015年1月号)の表紙と、その中の記事の一部を示しています。記事には、本学の男女共同参画の取り組みが紹介されています。右側のスクリーンショットは、琉球大学のウェブサイトやパンフレットに掲載されている「Child Care Handbook」の表紙と、その中の記事の一部を示しています。記事には、本学の保育サービスに関する取り組みが紹介されています。また、スクリーンショットには、琉球大学の学生や教員が参加しているイベントや活動の写真も含まれています。